ティーへの関心の高まり&ティービジネスの台頭

この数年、アメリカではティー（紅茶、緑茶などの他、ハーブティーを含む）の人気が徐々に高まっている。

基本的にアメリカではお茶を飲む習慣が根付いておらず、緑茶やハーブティーはもちろん、紅茶などもまず飲まないという人が多いが、近年、緑茶（日本で言う緑茶だけでなく中国茶などもその範疇に入る）に含まれる抗酸化成分や減量を促すEGCGという成分が脚光を浴びるようになったり、ボトル入りティー飲料が数多く出回るようになり、全米におけるティーの消費量が伸びてきている。

大手市場調査会社のミンテルによると、アメリカのティー&（ボトル入りなどの）ティー飲料市場は2011年から2014年に50%以上拡大し、今年83億ドル規模に達するということ。また同社は「今年、消費者の44%が、よりカロリーが低めで、甘さを抑えたヘルシーな飲み物としてティーを飲むようにしたいと考えている。特に高品質のプレミアムティーの人気が高まることが予想される」という調査結果を発表したが、こうしたティー人気の追い風となっているのが、ティーを主軸にしたフードサービスやティーを販売するリテーラーなど、最近台頭してきた新手のティービジネスだ。

その中でもひときわ注目を浴びているのが、米国内外に12,000店のコーヒーショップ・チェーンを展開しているスターバックス社が昨年10月に、ニューヨーク市内にオープンした『ティーバーナ/www.teavana.com 』ティーバーだ。

スターバックス社は数年前からティービジネスに着目し始め、12年6月、本拠地のワシントン州シアトルにティー専門店『タッゾ』をオープン（『タッゾ』は同チェーンが1999年に買収したティーのブランドで、『タッゾ』ティーはアメリカ国内の『スターバックス』各店でサーブされている）。さらに12年末には、全米各地に300店舗以上を展開するティーリテール・チェーン『ティーバーナ』を6億2,000万ドルで買収した。

『ティーバーナ』は紅茶、緑茶、ウーロン茶、各種ハーブティーなど世界から選び抜いた高品質の茶葉をベースにフルーツやスパイスのフレーバーを加えたオリジナルティーを揃え人気を得ているものの、物販だけしか行っていなかったのだが、昨年ニューヨークに開店した『ティーバーナ』は、イートインを主体にした、同チェーン初めてのティーバーだ。

なお、スターバックス社は同店を“ティーバー”とアピールしているが、「ティードリンクを主体にしたティーカフェ」という意味。アメリカでは『スターバックス』のような業態も、“コーヒーショップ”などより“コーヒーバー”と呼ぶことが多い。

『ティーバーナ』ティーバーの1号店としてオープンしたこの店の売りは、前述のようなユニークなフレーバーのオリジナルティーだが、特に目玉商品としているのは、さまざまなお茶とスティームミルクを合わせたティーラッテ、そしてアイスティーだ。

前者は、ウローン茶をベースにインド風スパイスをきかせた“マハラジャ・チャイ・ラッテ”、キーマンティー（中国産の紅茶）にベルガモット、マダガスカル産バニラ、柑橘類の香りを加えた“アール・グレー・クレーム・ラッテ”など。後者のアイスティーは、マンダリン（オレンジの一種）、クローブ、シナモン、アンチョチリなどをウーロン茶にブレンドした“スパイス・マンダリン・ウーロン”、マンゴー、ドラゴンフルーツ、ストロベリー、ハイビスカスなどを使った発泡性のハーブティー“スパークリング・ドラゴンフルーツ・ディボーション”など、個性的な香り、味のものが多数。さらに、グラスにココナッツ&ライチ・ゼリー（白）、マンゴー・ピューレ（黄）を重ねて、チェリー&ハイビスカス風味のグリーンティー（赤）を注ぎ、3色の層にした“ココナッツ・マンゴー・サクラ・アリュール”のような、カラフルなデザート風のアイスティーも揃えている。

それぞれのティーには、来店客にどんな味なのか飲んでみようと思わせるような、凝った名前が付けられている。

ホットティーは、（ティーバッグでなく）一杯ずつ専用のガラスのポットを使い、そのお茶に合わせて適正な抽出時間にタイマーをセットするなど、お客の目の前でていねいに淹れている。

また、スターバックス社が『ティーバーナ』ティーバーのために新たに開発した、ティーに合うスィーツ、食事メニューもサーブしており、それらも注目を集めている。

同社は今後、『ティーバーナ』の物販だけの既存店の多くを、イートイン・スペースがあるティーバーに転換していく予定。同時にこれまで地方や郊外のショッピングモールなどに展開していた同チェーンを都市部に増やすことも計画しており、今やあちこちで見かける（コーヒーの）『スターバックス』のように、近い将来、『ティーバーナ』が各都市の街角にお目見えすることが予測されている。

なおこの他にも、以下のようなティー関連のチェーンがアメリカのティーブームを盛り上げている。

■アルゴ・ティー

www.argotea.com

イリノイ州シカゴを本拠に、国内外に25店舗を展開するティーカフェ。アメリカでは温かいお茶よりアイスティーを好む人が多いことに目をつけ、南アフリカ産のルイボスティーにラズベリー果汁とホワイトチョコレートをミックスした“レッド・ベルベット”、一口大に切ったオレンジやリンゴ、ブドウなどをハイビスカスティーに入れた“ティー・サングリア”、緑茶に生姜とレモンをきかせた“グリーンティー・ジンジャー・ツイスト”など、数多くのオリジナル・アイスティーをアピールして成功。店内、オンライン（www.argoteastore.com）でティーの販売も行っている。

■ディヴィッズ・ティー

www.davidstea.com

カナダのティーリテーラーで、カナダ全域、アメリカの主要都市に80店舗以上を展開している。基本的に物販を主軸にしているが、店内にテーブル席やカウンターを設けた店舗も多く、ティーカフェとしても利用されている。

同チェーンも、乾燥させたイチゴ、砂糖とヘーゼルナッツを香ばしくトーストした